

非文字資料研究

The Study of Nonwritten Cultural Materials

NewsLetter

2003.10

No.1

CONTENTS

表紙写真説明

非文字資料であるこの一枚の写真（インド、ニューデリー郊外の土器作りの一郭で、1997年8月、川田順造撮影）は、身体技法や技術、道具のあり方などについて、沢山のことを考えさせてくれる。

まず、この土器作りの人が、男性であること。人類社会では長い間、多くの作業の領域で、男女の分業が行われてきた。土器作りについても、たとえば私が長く暮らした西アフリカ内陸部の多くの社会では、土器を作るのは女性の仕事でその夫は鍛冶師、生まれた子どもは、男の子なら幼いときから父や兄の仕事を見習って鍛冶師になって土器作りの女性と結婚し、女の子なら母や姉の手伝いをしながら土器作りになり、鍛冶師の男と結婚する。インドの土器作りを多年研究してきた私の友人によると、インドでは男女とも土器製作にたずさわるが、轆轤（ろくろ）を使うのは、ごく一部を除いて男性に限られるという*。

次に、この人の作業姿勢。インドでは、日本や中国南部、東南アジア、アラブ世界などと同様、人々は作業をするのにも、休息するのにも、しゃがむのが好きで、それが楽で安定した姿勢なのだ。ところが現代の欧米人には、しゃがめない人が多い。欧米では職人の作業も、伝統的に大部分立つか、高い位置で腰掛けてする。野球の捕手の捕球姿勢のように、かかとを上げたしゃがみは、欧米人にもできる。この写真の人がしているような深い安定したしゃがみは、足の甲と向こう脛のあいだの距離（きょたい）関節が、鋭角に曲がらなければならない。それは幼時からの習慣の問題だ。他の多くの地域では、しゃがみが行われているところでも、轆轤による土器成形の作業は台に腰掛けでする。インドでは蹴轆轤は発達せず、この人も台があるのに腰掛けず、台の上にしゃがんで作業している。

第三に、回転原理を応用した土器成形の轆轤。車など回転原理を応用した道具は、西アジア、東部地中海沿岸世界をはじめとして、ユーラシア大陸の大部分にみられるが、サハラ砂漠以南のアフリカや、白人との接触以前の南北アメリカ先住民社会にはなかった。日本でも、轆轤が大陸から渡来する前の縄文、弥生などの土器は、手ひねりや巻き上げだけで成形されていた。

第四に、轆轤を使って土器の成形をする社会では、手回しのものもあるが、多くは高い位置の腰掛け姿勢で、下のはずみ車を足で蹴って回転を与える。蹴轆轤の発達しなかったインドでは、しゃがんだ姿勢で足は使わず、両手で長い棒を持って轆轤に回転のはずみを与える。轆轤が十分に回ると、棒を脇に置いて両手で土器を成形するのだ。そしてこの回転の向きは、反時計回りなのである。日本では、土器成形の轆轤はふつう時計回りにまわす。ところが轆轤を日本に伝えた朝鮮半島や中国では反時計回りで、琉球でもそうだ。ユーラシア大陸は、中部のトルコからヨーロッパの西端のスペインまで、みな反時計回り。日本だけが、反時計回りに使われていた轆轤を大陸から取り入れて、回転の向きを逆にして使うようになったのだ。だが、なぜ？ 鋳や鎚（かな）も、大陸では押して使うのに、それを取り入れた日本では引いて使った。なぜ？

こうした疑問には、さまざまな答えが考えられる。だが、それについて述べるには、沢山の関連する社会慣行や自然条件などについて、まず検討しなければならない。意外な広がりをもつそうした問題を探求してゆくのも、私たちCOEプログラムの重要な課題の一つだ。

（川田順造）

*Marie-Claude MAHIAS, *Le barattage du monde: Essais d'anthropologie des techniques en Inde*, Editions de la Maison des Sciences de l'Homme, Paris, 2002

ご挨拶 3
山火 正則（神奈川大学学長）

プロジェクトの目的および研究計画 4
福田 アジオ

研究構想図 7

各班の目指すもの

第1班「図像資料の体系化と情報発信」 8
福田 アジオ

第2班「身体技法および感性の資料化と体系化」 10
川田 順造

第3班「環境と景観の資料化と体系化」 11
香月 洋一郎

第4班「文化情報発信の新しい技術の開発」 12
佐野 賢治

ESSAYS

研究エッセイ

それは一枚の写真から始まった 14
中村 政則

中国調査 中間レポート 15
鈴木 陽一

災害展示の絵図とCG 16
北原 糸子

サハリン調査ノート 17
富井 正憲

研究会報告 SCIENCE REPORT

地震の痕跡と名所絵
『名所江戸百景』の新しい読み方 18
原信田 實

図像・動作情報のデジタル入力について 19
齊藤 隆弘

■主な研究活動 20

■研究担当者紹介・COE研究員紹介 22

■MAP・事務局・写真紹介・編集後記 23

■Information 24